

八王子市立第三小・第四小・第十・大和田小学校

子どもの囲碁教室だより

88号 2024年2月

編集 成田 滋 shigerunarita@gmail.com

ブログ <https://naritas.jp/wp1/>

八王子囲碁連盟 <https://hachigoren.com>



シンビジウム

◆2月の子どもの囲碁教室の日程です

- ・ **第三小学校**：2月6日、13日、20日、27日
毎週火曜日 2時30分～ 四階 算数教室
- ・ **第四小学校**：2月5日、19日、26日
毎週月曜日 2時30分～ 二階 ひらめき教室
- ・ **第十小学校**：2月2日、9日、16日 2時30分～
毎週金曜日 一階 家庭科室
- ・ **大和田小学校**：2月7日、14日、21日、28日
毎週水曜日 午後2時30分 二階 図書室

◆1万円札に1万円の価値があるのは

このところ物価の上昇が目立ちます。便乗値上げも起こっています。財布に入っている紙幣の値うちが心配になります。かつて北海道大学時代に貨幣論という授業を受けたことがあります。そのとき学んだ貨幣論から紙幣とか貨幣の価値を考えるのが本稿の話題です。

戦前の紙幣というか貨幣は全く価値を失ったわけですが、このからくりは興味深いものです。昔の紙幣も日本銀行が発行する法定通貨でした。だから国民は誰一人その価値を疑うことはありませんし、今もそうです。誰もが1万円札に1万円の価値があると信じています。1万円札一枚を刷るのに22円しかかからないのですが、

この一枚の紙切れを1万円の価値があると信じているからこそ、どんな取引に



応じてくれるという期待を持つのです。その期待が壊れるのは、敗戦とか国が滅ぶときです。紙幣がただの紙切れになる現象は、ハイパーインフレーションということです。昭和20年にそのことが起こりました。他の国でも戦争はハイパーインフレーションを引き起こしたものです。

どうして今は我が国を含めて他の国もハイパーインフレが起きないのでしょうか。それは、政府が1万円札に1万円という貨幣価値を保証しているからです。言い換えますと、紙幣は広義の中

央銀行の債務証

書であり、その債務を返還する力が政府にあるからです。政府は債務を返済する徴税能力を有していると国民は信頼しているのです。徴税能力とは収入を得る力といいかえることができます。

昔は、金本位制といって金を通貨価値の基準とする制度がありました。中央銀行が、発行した紙幣と同額の金を常時保管して、兌換といって金と紙幣とを引き換えることができました。このように、銀行の信用で同額の金貨や銀貨に交換することを約束した紙幣は兌換紙幣といわれました。銀本位制もありました。しかし、経済が急速に発展すると、金の生産量が追いつかなくなります。金本位制を保持することが難しくなり、金貨との交換を保証しない紙幣を発行することになったのです。国の信用で流通するお金である信用貨幣に移行したのです。

政府にはいろいろな統治能力がありますが、その中心は通貨の流通量を維持管理することに



あります。造幣局の輪転機を回せば、いくらでも一万円札は増刷できます。そんなことをすれば、物価はもの凄い勢いで上昇し、社会は混乱します。通貨の量を管理するのは大事な国の仕事です。通貨管理、軍事や外交といった国の統治能力が麻痺したのが先の敗戦です。徴税や信用という能力を失ったのでした。

私には今も二宮尊徳の1円札はなお記憶にあります。この札はアンティークとして蒐集家の間で1万円で売買できるとすれば、興味深いことです。1円札と1万円札の値が同じになるとは、なんとも不思議な感じがしませんか。ただし、日本銀行によれば、今も店頭で尊徳さんの1円札は使えるそうです。でもなにも買えませんね。もし、1円札を見かけたら使わずに即座に貯めたいものです。

